令和4年度（第15回）「国土交通大臣賞（循環のみち下水道賞）」

別紙4

# 広報・教育部門

応募事例名

## 「下水道の魅力」 × 「DX」 × 「メディア」
## ～動画を活用した下水道プレゼンス・サステナビリティの向上～

応募団体名）習志野市企業局

## 応募事例の概要

【伝える・作る】「様々な世代をターゲットとした“魅力発信動画”」と「小学生をターゲットとした“デジタル教材動画”」の2種類の広報ツール（YouTube動画）を制作

動画QRコード

「魅力発信動画～わたしが支える あしたのくらし～」
職員が誇りや使命感を持って下水道整備する姿を描き、様々なターゲットへ下水道事業の魅力を発信する動画。
下水道使用者などの信頼獲得、市外の子育て世代などへ魅力発信→定住促進。
就職活動生学生→担い手確保。中高生のキャリア教育にも活用できる。
職員→意識・使命感・結束力の向上。

「デジタル教材動画」
下水道の役割や仕組みを学べる動画。
GIGAスクール構想による生徒一人一台タブレット化を活かし、授業でも家庭学習でも使用できる。
文部科学省小学校学習指導要領に準拠。
大人が見ても新たな発見が得られる。
ドローンによる迫力ある映像やCGを駆使し魅力的なビジュアル。

【広げる】 ニュースリリース配信サービスを活用したことで、20社のメディアに取り上げられた。
プレスリリース後１か月で視聴回数56％向上。
魅力発信動画は、3分37秒の長編版のほか、15秒の短編版を制作しデジタルサイネージを活用した様々な場面での広報を展開。

## PRポイント

・【伝えるくふう】 2種類の広報ツールを制作することで、幅広い世代に下水道事業の理解を得ることができる訴求効果。下水道分野が魅力的な職場であることの見える化。視覚に障がいのある方や外国の方にも幅広く視聴していただけるよう日本語字幕・英語字幕版・中国語字幕版・韓国語字幕版のラインナップをそろえ、誰一人取り残さないPRを展開。

・【作るくふう】 デジタル教材動画の内容は、教育委員会監修のもと文部科学省小学校学習指導要領に準拠し、教材としての質を十分に持ち合わせたスペックとした。また、社会インフラの重要性、環境・防災教育に役立てるものとした。

・【広げるくふう】 動画制作だけで終わらせることなく、幅広く動画を周知した。ホームページでの動画公開後に、広報紙・記者会見やTwitterに加え、ニュースリリース配信サービスを活用したプレスリリース。15秒の短編版は市役所デジタルサイネージで放映している。今後、鉄道や大型店舗など様々な場面でのPR展開を検討している。

公営企画課 副主査
増田 史治

・本市は、公営企業として下水道事業、水道事業及びガス事業の3事業を運営しており、それぞれ3本のデジタル教材動画を制作する中で、「児童の学習意欲を掻き立てるような内容・表現・構成」とし、普段は目にすることのないインフラを身近に感じてもらえるよう心掛けました。
魅力発信動画では、「習志野市なら安心して暮らせそう」とか「習志野市企業局ってなんかカッコいいな。インフラを守る仕事って“誇り”や“やりがい”を感じそうだな。」と思っていただけるよう心掛けました。
これらの動画を視聴した志の高い若者と共に仕事ができる日を楽しみにしています。